

沼津高専だより

第109号

平成28年7月1日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



入学式



スポーツ大会



寮祭



救命救急講習会



防災訓練



選挙管理委員会出前授業

目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

☆新年度にあたって (年度方針等)

2年目に向けて	……………	学校長	藤本 晶	……	4
安全で安心して学べる環境づくり	……………	副校長 (教務主事)	小林 隆志	……	4
チャレンジする心を持って	……………	校長補佐 (学生主事)	芳野 恭士	……	5
平成28年度の学寮スタートにあたって	……………	校長補佐 (寮務主事)	小林 美学	……	5
平成28年度のはじめにあたり	……………	校長補佐 (専攻科長)	高野 明夫	……	6
年頭にあたって	……………	機械工学科長	村松 久巳	……	7
目標と夢の実現に向かって	……………	電気電子工学科長	野毛 悟	……	7
電子制御工学科設置30年を振り返って	……………	電子制御工学科長	遠山 和之	……	8
コミュニケーションの切っ掛けづくり	……………	制御情報工学科長	藤尾三紀夫	……	9
本年度も物質工学科をどうぞよろしく!	……………	物質工学科長	後藤 孝信	……	9
自分の夢に向かって	……………	教養科長	佐藤 誠	……	10

☆人事異動について

平成28年度 人事異動	……………				10
平成28年度 校務分掌・学級担任	……………				11
平成28年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員	……………				12

☆着任挨拶

高専の違いを学ぶために	……………	物質工学科	高田 陽一	……	13
高専教育で目指すこと	……………	物質工学科	新井 貴司	……	13
夢	……………	教養科	芳賀多美子	……	14
誰もが誰かのメンター	……………	教養科	黒田 一寿	……	14

☆新入生から (入学にあたり)

創造と責任	……………	1年1組	吉川 詩音	……	15
高専生活で努めること	……………	1年2組	寺田 蒼	……	15
今、思うこと	……………	1年5組	久我 五葉	……	16

☆卒業生から

在校生の皆様へ向けて私の所感	……………	電子制御工学科21期	金子 裕哉	……	17
「これがしたい!」を見つける	……………	制御情報工学科14期	藤原 好美	……	17

☆留学生から

初めまして	……………	物質工学科3年	パトパヤル ウラン ウルジ	……	18
-------	-------	---------	---------------	----	----

☆寮生会活動について

学生寮の紹介	……………	電気電子工学科4年寮長	武 縄 祐 樹	……	18
--------	-------	-------------	---------	----	----

☆私の高専時代

高専生活で得たもの	……………	機械工学科29期	大久保進也	……	19
-----------	-------	----------	-------	----	----

☆教育後援会から

教育後援会の組織が新たに変わります	……………	教育後援会会長	河 合 隆 徳	……	20
-------------------	-------	---------	---------	----	----

☆入学に際して保護者から

沼津高専に入学して	……………	新入生保護者 (1年3組)	佐塚智佳子	……	20
これから	……………	新入生保護者 (1年4組)	佐藤かおり	……	21

☆事務部から

平成28年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	……………				21
平成28年度 (8月~3月) 行事予定表	……………				22

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

本科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専攻科

教育方針

創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するため、融合複合・新領域分野をテーマとする専攻科実験の実施、長期インターンシップによるエンジニアリングデザインの実務体験、専攻科研究のマンツーマン指導などを教育方針としており、これらの教育方針の下に以下の学習・教育目標を達成する。

学習・教育目標

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる。
- (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学、材料工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる。

新年度にあたって (年度方針等)



2年目に向けて

学校長
藤本 晶

日頃から沼津高専への多大なご支援を賜りありがとうございます。関係者を代表して感謝の意を表します。

沼津高専は、極めて恵まれた環境に置かれています。東海道線、東海道新幹線、東名に新東名高速道路があり、首都圏まで約1時間、交通の便は申し分ありません。また地元沼津市は20万人、隣接する三島市、裾野市、長泉町はそれぞれ10万人、5万人、4万人と、周辺に約40万の人口があります。さらに競争相手となる高専は、隣接する神奈川、山梨にはなく、愛知県の豊田高専まで直線で約150kmも離れています。学内に目を向けると、学生は真面目で偏差値も学習意欲も高く、生活面でのトラブル等も多くありません。教職員も熱心で、学習指導、課外活動の指導、教育環境の充実に日夜励んでいます。

昨年度は、私の経験、知識、能力で、このように恵まれた沼津高専に何ができるのかを考えた一年でした。行き着いたのは、周囲に親しまれる風通しのよい学校にすること、組織としての力を引き出すこと、学生中心の教育をすること、そして内部のことですが、無駄な業務を省いて効率の良い学校にすること等です。これらの視点で、緊急度や難易度を考え、以下に列挙するいくつかの

具体的な取組を行いました。

【開かれた学校に向けて】

- * 学校HPの一新、新着情報欄の新設 (2015年5月)
- * 学内のイベントや出来事の報道機関への積極的なリリースの開始 (2015年5月)。
- * 沼津朝日新聞に教員紹介「シリーズ 最先端を行く」の連載開始 (2016年5月現在12回掲載)

【組織的な取組に向けて】

- * 「沼津高専と共に歩む議員連盟」の設立 (2016年1月)
- * 「沼津高専地域創生交流会」の設立準備 (2016年6月10日設立)
- * 韓国クモ工科大学と交流協定締結 (2016年2月)

【学生中心の教育の実現に向けて】

- * 保護者との意見交換のために教育後援会に支部組織、専門部会を新設 (2016年4月)
- * 留年・退学者を減らすために「学習サポートセンター」を設置 (2015年12月)

上記の項目を必要性や緊急度を考慮して、可能なものから順次実行に移してきました。まだ一部の取組を除いて、形がようやく出来た段階です。実質的に動かすのが今年度からの課題となります。

今年度も皆様のご期待にどれだけ応えられるかわかりませんが、学内外の事情、私の能力等を考慮しながら、出来る限りのことをしたいと考えています。引き続き沼津高専へのご支援をお願いする次第です。



安全で安心して学べる 環境づくり

副校長 (教務主事)
小林 隆 志

4月より蓮實先生の後任として副校長 (教務主事) を仰せつかりました。学生の皆さんにとってこれまで以上に安全で安心して学べる環境づくりを進めて参りたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

新年度が始まって間もなく熊本地震が発生し、多くの方が被災しました。熊本高専 (熊本キャンパス・八代キャンパス) では人的被害はなかったものの、長期の休校を余儀なくされました。自然災害は起こりうるものと考えて、本校でも万が一災害が発生したときの学生・教職員の安全確保のために、万全の対策が取れるよう日頃から意識していきたいと考えています。

3月には本科卒業生185名、専攻科生24名が就職・進学

のそれぞれ希望の進路に進みました。そして4月には新入生210名 編入生6名 留学生1名を迎えて新年度がスタートしました。在学生の皆さんは、将来、世界で活躍するエンジニアとなるべく努力して、先輩に続くことを願っています。今年は学際教育の新カリキュラムの完成年度であり、今年の本科学卒業生の進路が注目されます。

最近減少傾向にあった留年者、退学者が再び増加する傾向があることを憂慮しております。学生の皆さんが熱心に学習することは大前提ですが、学校としても、学習支援体制の構築、教務制度の見直しを進めています。昨年度、校長の指示により、学習サポートセンターを図書館ロビーに設置し、センター長勝山先生を中心に、学習面での支援にあたる体制を整えました。授業でわからない点を早い段階で解消し、さらに学ぶ方法を身につけることができると、自分が興味をもった創造的なことに時間を有効に使えるようになります。是非、積極的に学習サポートセンターを活用してください。また学生生活上の悩みに関しては、学生生活支援室の鈴木久博先生を中心とする支援体制を利用してください。退学者を減らす

ために、昨年は2年を超えての在学を可能とする教務制度上の変更を行いました。今年度も引き続き、教務制度上の対策を検討してまいります。

行事日程では、夏休みが7月22日から8月31日までに変わりました。これは夏場のエアコンの消費電力の問題、

8月上旬まで授業と期末試験が行われることによる学生への負担などを考えた結果です。今から夏休みの有効な活用計画を検討してください。

引き続き保護者の皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。



チャレンジする 心を持って

校長補佐（学生主事）
芳野 恭士

本年4月より学生主事に就任いたしました。学生諸君の危機管理を第一に、生活のサポートをして参りますのでよろしくお願い致します。

本校では、交通事故やクラブ活動等での事故、非違行為、メンタル面でのトラブルなどの学生を取り巻くリスクに、これまで同様に対処していく所存ですが、学生諸君自身も普段から事故やトラブルに会わないようにするにはどうするべきか、よく考えて行動してください。起こってから対応はもちろんです、起こらないように予防することが何事においても大切だと思います。周りの注意喚起の声や事件のニュースなどを他人のことと思って聞き流さずに、「自分だったらどうだろうか」と考えてみてください。

さて、学生生活の中ではまずはリスクの回避が大切ですが、一方で学生諸君には自分を成長させることには是非積極的に取り組んでほしいと考えています。クラブ活動や様々なコンテスト、イベントなどへの参加は、他人とのコミュニケーションのよい機会となり、また視野が広がります。学生諸君が目指すよい技術者には、広い視

野とともに高いコミュニケーション能力と思いやりが必要です。技術者が作り出すものは、最終的には一般の方々が利用するものとして集約されます。そのため、利用者が納得する技術でなければ、技術者自身がいかに自己満足していても社会に受け入れられません。利用する人のことを思いやる気持ちが、よい技術者には必要です。学生諸君には、様々な体験を通して思いやりの心を身につけてほしいと思います。

昨年度も様々な大会やコンテストに本校の学生が参加し、優秀な成績を取っています。東海地区高専体育大会などのスポーツの大会での入賞6件、全国高専デザインコンペティション2015などの校外の様々なコンテストやコンクールでの表彰8件、日本化学会化学フェスタ2015などの学会やシンポジウムでの研究発表の表彰10件、新聞への投稿掲載1件のほか、表彰などこそなかったものの起業体験事業「AZEKURAプロジェクト」や地方創生政策アイデアコンテスト2015などにもチャレンジした学生がいました。それぞれ、大変よい経験になったものと思います。今年度も、学生諸君には、日頃の勉強や練習で身に付けた力をコンテストなどで試してみたいと思います。その過程で、もしかすると今まで気がつかなかった自分を発見するかもしれません。

保護者の皆様には、平素本校の教育にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。これからも私たち教職員と一緒に、お子さんの成長を見守っていただけますようお願いいたします。



平成28年度の 学寮スタートにあたって

校長補佐（寮務主事）
小林 美学

平成28年度の学生寮は、留学生6名を含む562名でスタートしました。寮生会では寮長の武縄祐樹君、副寮長の大川雄大君、山本翔瑛君をはじめとする本部役員や、各棟や各部署の役員が今年度も精力的に活動をしています。私も2年目を迎え、初年度であった昨年度よりは、少しは落ち着いた状態で寮を見ることができているかと思っています。

昨年度は寮生会と相談しながら、4月の新入生の特別外泊、夏休み前の大そうじのスリム化、寮生保護者懇談会の実施などいくつかの事を試みました。特に寮生保護

者懇談会では、保護者のみなさまから直接意見を聞く機会を設けられたことが大変有用であったと思います。

ちなみに寮生保護者懇談会で実施したアンケートでは、「子どもが本校の寮生活をしてよかったと思いますか」との問いに対して67%の方が「よかった」、25%の方が「どちらかと言えばよかった」、8%の方が「どちらとも言えない」と答えられ、「どちらかと言えばよくなかった」や「よくなかった」と答えられた方はいませんでした。施設や設備の点で決して十分とは言えず、集団生活のため不自由な思いをさせることの多い寮ですが、多くの保護者の方から本校の寮生活について肯定的な評価を頂けたことは、寮生会にとっても、私たち寮務担当教員にとって大変励みになるものでした。

さて今年度も寮生会と相談しながら、まだ実現できるかどうか分かりませんが、年度途中での一年生の部屋替えやメンター制度の試行など、いくつかのことを検討したいと思います。年度途中の一年生の部屋替えについて

は、それが行われるなら、入寮時とはまた異なる意味で一年生にとって人間関係構築のよい経験になると思います。メンター制度については、今年度は試行のためにごく小規模な実施にはなりますが、先輩・後輩の縦の関係と、同級生同士の横の関係とは違った新しい人間関係をこの寮にもたらししてくれることと思います。本校の寮は教員のサポートの下、寮生会が能動的に活動し、しっかりとした運営がなされている寮だと思いますが、新たな

試みによって生まれる人間関係が、寮生会の活動をより幅広いものにしてくれることを願っています。

また5月には教育後援会に寮生部会が発足しました。この寮生部会を通じて、寮生会、教員、保護者の三者でこの寮をよりよいものにしたいと思います。保護者のみなさまにおかれましても、寮の活動についてお気づきのことがあれば、いつでもご連絡を頂ければと思います。今年度も一年間、どうぞよろしくお願い致します。



平成28年度のはじめにあたり

校長補佐（専攻科長）
高野 明夫

専攻科は、従来の3専攻体制から1専攻3コース体制へと教育課程が改編され、はや2年が経過しました。今年の3月には新課程最初の修了生24名全員に学士（工学）の学位が授与されました。皆様の教育活動へのご理解ご協力に深く感謝いたします。

本年度は、1年生25名、2年生26名の計51名が専攻科に在籍しています。コース別では、環境エネルギー工学コースに18名、新機能材料工学コースに12名、医療福祉機器開発工学コースに21名となっています。本年度の専攻科は私の他に、大庭勝久准教授、小村元憲准教授、横山直幸講師の3名のコース長、吉野龍太郎教授、新富雅仁准教授、山根説子講師の3名の専攻科運営委員の合計7名で企画運営に当たります。よろしくお願い致します。

以下に、昨年9月の特例適用の追加申請、11月の日本技術者教育認定機構JABEEによる継続審査、2年生の進路状況、今年の専攻科入試改革について報告させていただきます。

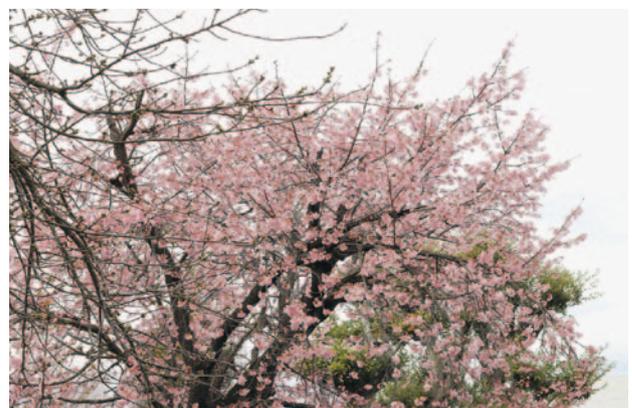
まず、特例適用ですが、特例適用専攻科になりますと、学生は大学改革支援・学位授与機構への学修成果レポートの提出と筆記試験が免除されます。学位申請は学校で一括して行われ、原則として申請者全員に学位が授与されます。代わりに、あらかじめ研究指導する教員に大学設置基準の定める教授、准教授と同等の資格があるかが審査されることとなります。昨年9月の追加申請によって、本校ではこの4月から機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学の学位専攻全てについて特例が認められ、博士号取得者の内28名が指導教員として認定されました。教員については、今年も追加申請を行い、増員する予定です。

さらに、昨年11月にはJABEEによる継続審査を受審しました。結果として、認定期間としては最長の6年間の継続が認められました。世界標準の大学教育と同等の教育が行われていることが保証されたこととなります。特

例適用及びJABEE認定によって、本校専攻科の教育内容の質が保証・裏付けられましたが、このことは、学生の進路に以前から十分反映されています。

昨年度は24名の修了生のうち、就職が14名、大学院進学が10名でした。いずれも優良企業や国立大学の大学院へ進んでいます。本年度については、2年生26名の内、就職希望15名、大学院への進学希望が11名となっています。昨年の長期インターンシップ先の企業を含め、5月13日現在ですでに3名が内々定をいただいております。多くの就職希望者はこれからが本番となりますが、希望の企業に就職できるよう全力でサポートして参ります。

最後になりましたが、本年より専攻科の入学試験の選抜方法が変更されます。以前は推薦選抜と学力選抜を同日に行い、同一の筆記試験を課していましたが、推薦選抜と学力選抜を別日程とし、筆記試験については学力選抜についてのみ行うことにいたしました。また、問題についても、数学ⅡC、物理、化学の選択問題の他に、数学ⅠCを必須としていましたが、数学ⅠCの必須を取りやめ、数学、物理、化学の選択のみとしました。なお学力選抜でのTOEICのスコアシートについては、引き続き評価対象としています。特例適用とJABEEによる教育内容の保証、かつ充実した進路先、学生の負担を減らした入試改革によって、多くの学生が専攻科を目指してくれることを期待しています。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。





年頭にあたって

機械工学科長

村松 久 巳

日頃より機械工学科の教育と指導にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。平成28年度のクラス担任を紹介します。2年生の副担任は永禮哲生先生、3年生の担任は鈴木尚人先生、4年生の担任は新富雅仁先生、5年生の担任は西田友久先生です。経験豊かな先生方が学校生活や学業についてアドバイスをいたしますので、積極的に相談してください。

つぎに各学年における学習や進路のポイントを述べます。1年生においては、御殿場で実施した研修を終えて高専の学生生活に慣れてきたと思います。研修の講話の時間に題目「機械工学にける夢」の作文をしました。42名の大きな目標があり、達成することを願っています。夢の実現のために寮での自学自習に取り組んで学習を継続する習慣をつけてください。2年生においては機械工学の専門科目と実技科目が始まっています。高学年における基礎となりますので、盤石なものを築いてください。3年生は機械工学の柱となる科目が展開されています。

内容を理解して使えるように積極的に学んでください。5年間の中間地点にあり、気持ちのゆるみが起こらないように注意してください。学外の資格試験に挑戦することも大いに有意義なことです。4年生は機械工学の構造体を構成する専門科目が多くなります。将来、技術者として欠かすことができない知識を学び、豊富な経験を積むことができます。下級生に比べて提出する課題が多く出されています。情報処理の技術を活用して、効率よく作業が完成するように工夫してください。また進路の調査を始める時期になります。企業のインターンシップや大学のオープンキャンパスに積極的に参加して、活動や環境を体験してください。5年生は卒業に向けて大切な一年です。学業の成果を積み上げるとともに、進路先を決定してください。十分な準備をして面接や試験に臨むことが大切です。書類の作成・面接の練習・試験問題の解説など教員に相談してください。自らが取り組みたいことに加えて、受け入れ先が求める人材を理解して、対策をしてください。

最後に、どの学年においても志を忘れないで研鑽に励んでください。自己ベストの成果が得られるように目標を立てて実りある一年になるように祈念しています。継続した努力は必ず成果につながります。機械工学科の教員は学生皆様の成長と発展を支援します。



機械工学科1年生



目標と夢の 実現に向かって

電気電子工学科長

野毛 悟

本年度より学科長を拝命しました野毛です。よろしくお祈りします。

電気電子工学科では、42名の新入生、4年生に1名の編入学生を迎えました。現在、当学科には、2年生44名、

3年生41名、4年生42名、5年生39名、合計208名が在籍しています。常勤教員では、山之内助教がオムロン(株)に研修に出ており、11名の体制で学生の指導にあたります。就職指導は経験豊富な望月教授、進学指導は5年担任の大津教授に担当頂きます。4年担任の大澤准教授は本校OBであり、ご自分の経験も踏まえて指導に当たっています。3年担任の高矢講師は、昨年度2年生の副担任として学生個々を良く知っており適任者です。2年副担任は、担任経験も豊富な西村教授です。西村教員も本校のOBであり、低学年での生活・学習習慣の大切さを指導してもらいます。各学年に相応しい担任を配置できました。ど

のようなことでも構いませんので、ご心配やご相談がございましたら、まずは担任にお声かけ下さい。

4月中旬に恒例となっている学科ガイダンスを新入生から5年生に対して行いました。学科ガイダンスでは、学科の特徴と教育内容、社会からの期待の大きさとそれに伝える心構えをお話しました。「実践力」を養う高専の特性を最大限に生かし、各自の目標と夢の実現に向かって努力を惜しまないでほしいと強調しました。具体的には、日々の生活が受け身ではもったいないこと、時間を有効に使うこと、「どうせ無理」という安易な諦めを口にしないことを伝えました。

就職や進学活動について近況をご報告致します。5年生39名のうち、就職希望者は19名、進学希望者は20名と

なっています。就職における求人状況は引き続き極めて良好であり、4月末で140社以上からの採用担当者の訪問を受けました。今年は採用選考が6月1日以降と昨年より前倒しになるなど変化がありましたが、学科ではこれに迅速に対応しておりご心配には及びません。就職活動は順調に進行しており、就職希望者全員が内定を頂けると考えております。一方、進学については例年通り編入学出願の手続きが本格的に始まっています。各自が目標に向かってしっかりと努力し、こちらも好結果を出してくれることと期待しています。

最後に、教育の改善と一層の充実を図るため教員一同全力で取り組んでおりますので、保護者の皆様の変わりぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



電子制御工学科 設置30年を振り返って

電子制御工学科長
遠山 和之

電子制御工学科は昭和61年4月1日に沼津高専の第4番目の学科（当時は、機械工学科2学科（平成4年に1学科が制御情報工学科に改組）、電気工学科（平成10年に電気電子工学科に改組）、工業化学科（平成元年に物質工学科に改組）の3学科がありました。）として設置されました。この設置から既に30年の年月が経過したことになります。過去の資料を調べてみたところ、平成3年度の1期生41名の卒業生を皮切りに平成27年度までの26年間で1,029名の卒業生を送り出しています。下に書きましたが、学科長（学科主任）も初代の野島学科主任から私でちょうど10代目になったようです。学科設置当初は、物理実験室を間借りして、D1、D2の工学実験を行っていました。電子制御工学科棟は昭和62年初めに着工、同年11月30日に竣工しています。1階に情報処理演習室や工作室として利用した基礎工学実験室（現クリエイティブラボ）、3階に主に電気系の実験を実施する電子制御実験室（通称3階実験室）があります。平成13年～平成23年までは電子制御工学科の1年～5年までの教室、学科教官（教員）の教官（教員）室も同じ建物内にありました。この配置は、学生にとって移動距離が少ない恵まれた環境と自負しております。現在は、D2・D3の教室が2階、D4・D5の教室が4階の配置ですが、その当時は、D1・D2の教室が4階で、D3～D5の教室が2階という配置でした。国立大学への編入学を目指す5年生が教室で夜遅くまで勉強をしていましたことや電子制御工学科の目玉である小型知能ロボット開発（通称MIRS）の製作で4年生が工作室に寝泊まりしていたことが思い出されます。このMIRSの最初の頃は、3年後期から4年にかけての1年半の年月をかけて、対戦型（相

手チームの停止ボタンを押す）ロボットの設計・製作するものでした。現在は数字や色などの画像認識の技術を取り入れた怪盗ロボットを追跡する競技になり、期間も4年次の1年間に短縮されています。毎年1月に競技会を開催しますので是非足をお運び頂ければと思う次第です。

話は変わりますが、4月22・23日に1年合宿研修が国立中央青少年交流の家でありました。学科長として23日に電子制御工学科1年生に学科の特徴、学科教員の紹介、カリキュラム等を中心に話をしております。その席で、特に強調したのは数学です。工学を学ぶ（工学専門書を読む）力はその基礎となる数学や物理の理解度に直結しているため、数学の単位を落とす、またはC評価というのは非常に深刻な状況と捉えて欲しいと感じます。数学は必修科目であり、1年～3年の各学年で6単位（計18単位）、4年で応用数学が2単位というカリキュラムからも、その重要度が伝わるのではないかと思います。昨年度図書館1階に学習サポートセンター「フジカフェ」を設置しました。数学の評価がC評価以下の学生は積極的にこのサポートセンターを利用し、留年しない努力をしてほしいと感じます。

今後とも保護者の皆様のご支援とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

歴代電子制御工学科長

初代学科主任	野島 敬一郎 (S61～H2)
2代学科主任	魚住 董 (H3～H6)
3代学科主任	森井 宜治 (H7～H9)
4代学科主任	小林 幸也 (H10～H13)
5代学科主任	澤洋 一郎 (H14～H15)
6代学科長	舟田 敏雄 (H16～H17)
7代学科長	長澤 正氏 (H18～H20)
8代学科長	舟田 敏雄 (H21～H22)
9代学科長	川上 誠 (H23～H25)
10代学科長	遠山 和之 (H26～)



コミュニケーションの 切っ掛けづくり

制御情報工学科長
藤尾 三紀夫

保護者の皆様方のご理解とご協力を頂き、制御情報工学科では3月に33名の卒業生（就職8名、進学25名）を送り出すことができました。また、4月には41名の1年生を迎え入れ、新年度のスタートを切ることができました。そして私自身も未熟ながら学科長として3年目を迎えることができました。改めて保護者の皆様方には感謝申し上げます。

制御情報工学科は、鈴木准教授が富士通(株)の研修から戻られ、11名のフル体制でスタートしています。就職と進学担当は昨年引き続き、長縄教授と長谷教授（5年生の担任）にご担当頂いています。また4年生は熱血指導の芹澤教授、3年生はキャリア支援室長の長縄教授にクラス担任を、そして2年生は山崎准教授に副担任をお願いしています。長縄教授は初めての担任ですが、社会経験も豊富で面倒見が良く学生達をしっかりとサポート頂けると思います。どのようなことでも構いません、各学年で何かございましたら担任まで気軽にお声かけください。

毎年、この紙面をお借りして学生へのメッセージを伝えてまいりました。1昨年は「目標（夢）を持ってコツコツ頑張る大切さ」、そして昨年は「自らの心を開くためのあいさつの大切さ」でした。しかし残念ながらこれらのメッセージが学生の皆さんに充分伝わっていたとは言えませんでした。原因を考えたところ、学生と教員のコミュニケーション不足が一因ではないかと思ひあたりました。そこで、今年から制御情報工学科1年生を対象に専門学科の先生方を知って貰う切っ掛けとして、アドバイザーグループを試行することにしました。具体的には各教員が数名の1年生をグループとして担当し、生活や勉強、将来についての相談相手となります。あくまでアドバイザーですので、気楽に雑談しコミュニケーション作りの切っ掛けと練習ができればと思っています。コミュニケーションは人間関係の基本となります。幸い制御情報工学科には様々な経歴を有した教員がいます。2年以上の学生の皆さんも、ぜひ教員とのコミュニケーションの切っ掛けを作りたいと願っています。

最後に、制御情報工学科では今年度、コミュニケーションをキーワードに、担任を中心として学科一丸となって学生の皆さんを支援していく所存です。そのためには保護者の皆様方のご理解とお力添えが必須です。今年1年、皆様方のご支援とご協力を頂きますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



本年度も物質工学科を どうぞよろしく！

物質工学科長
後藤 孝信

新年度が始まり、新入生が入学してから3ヵ月が過ぎようとしています。大きな問題も無く、本年度も順調な滑り出しが出来たと感じており、これも保護者の皆様を始め、関係者各位のご理解とご協力の賜物と感謝致しております。物質工学科の学生現員は、1年生44名、2年生40名、3年生50名、4年生47名、5年生42名の総員223名で、本年度も5学科中で最多となっています。これは物質工学科の人気の高いことの現れで、人数が多い分授業は大変ですが、学科の教員としては嬉しく思います。なお、3年生、4年生、そして5年生には、転科生、留学生と編入生が3名、4名、そして3名ずつ在籍しています。

教員に関しましては、新井貴司教員を新メンバーとして迎えることになりました。ご専門は“無機材料”で、社会人1年目です。沼津高専の教員として、そして学校を代表する研究者に成長して欲しいと願います。また、人事交流の一環として、宇部高専の物質工学科から高田

陽一教員を迎えております。ご専門は界面化学・コロイド化学です。それ故、本年度は12名体制で学科を運営致します。

教育内容につきましては、本年度で新カリキュラムへの移行が完了します。学際教育による教育の幅が広がる一方で、今日までの内容を損なうことが無い様に、今後も見直しと改善を図りたいと考えます。

学生の進路に関しましては、本年度も就職協定が変更され、企業の採用試験の実施が6月1日以降となり対応に苦慮しましたが、関係者各位のご尽力で、就職希望者全員が第一希望の企業の採用試験を受けております。一方進学は、5年生担任の青山教員の指導の元、これから本番を迎える専攻科および大学の入学・編入学試験に向けて着々と準備を進めております。就職と進学に共通して言えること、それは“5年間の努力が実を結ぶ”ということ。何れの場合にも教員の調書が必要ですが、その内容を十分に書けないことがあります。学生からも“自分について書くことが無い”と相談を受けます。それ故、(1)日頃の勉学に地道に勤しむ！(2)学内外行事やクラス内行事に積極的に取り組む！(3)部活動は退部しないでチームワークを形成する意識を養う！といったことを実行し、自身の価値向上に日々努めて欲しいと願います。

微力ながら精一杯頑張る所存です。本年度も物質工学科をどうぞよろしくお願い申し上げます。



自分の夢に向かって

教養科長
佐藤 誠

新年度がスタートし、この4月から教養科長を務めることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。教養科教員の主な任務として、本校1、2年生の学生指導（クラス運営）があげられます。今年度は、1年部が学年代表（鈴木久博先生）と各クラス担任の6名体制、2年部はクラス担任を兼務する学年代表（住吉光介先生）と4名のクラス担任および専門学科から配置された5名の副担任でクラス運営を行っていきます。

教養科では、本年度2名の新しい先生をお迎えしました。国語を担当する芳賀多美子先生と東京高専から人事交流で本校に配属となった体育科の黒田一寿先生です。芳賀先生は高等学校で長く勤務された経験を持ち、黒田先生は東京高専で学生生活支援に貢献されてきた先生です。2名の心強い先生を迎え、総勢26名の体制で学生の

教育に努めてまいります。

さて、本校だけの問題ではないと思いますが、このところ学生たちの学力低下がいろいろな場面で話題に上っております。本校でも低学年次における留年、退学は大きな問題であり、早急に解決されなければならない問題の一つです。低学年で勉強に躓いている学生たちを見ると、目的意識や自分の夢を見失い、やる気のない状態で日々を過ごしているように感じられます。私は、将来の夢や目標を明確に意識することが自分の行動を支える核になると思っています。本校に入学する際には、どの学生も自分なりの夢や目標を持っていたことと思います。保護者の皆様には、学生たちがどんな夢を持っているのか、どんな目標を掲げているのかということをぜひ家庭の中で確認していただければと思います。私たち教養科教員も専門学科の教員と連携を取りながら、学生たちがさまざまな夢や目標を持ち、いろいろなことにチャレンジできるような環境づくりをしていきたいと思えます。そのためには、保護者の皆様とのコミュニケーションも重要になります。些細なことでも担任に相談していただければと思います。今年一年間、保護者の皆様のご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成28年度 人事異動について

発 令 日 付	氏 名	異 動 の 内 容	旧 職 名 等
平成28年3月31日	宮内 太 積	定年退職・嘱託教授に再雇用	教授（機械工学科）
	押川 達 夫	早期退職	教授（物質工学科）
	蓮 實 文 彦	早期退職	教授（物質工学科）
	中 園 孝 信	再雇用期間満了退職	特任准教授（教養科）
	待 田 芳 徳	再雇用期間満了退職	
平成28年4月1日	芳 賀 多 美 子	准教授（教養科）に採用	
	新 井 貴 司	助教（物質工学科）に採用	
	黒 田 一 寿	准教授（教養科）に配置換	東京工業高等専門学校
	高 田 陽 一	准教授（物質工学科）に配置換	宇部工業高等専門学校
	竹 口 昌 之	教授（物質工学科）に昇任	准教授（物質工学科）
	松 本 祐 子	准教授（制御情報工学科）に昇任	講師（制御情報工学科）
	黒 澤 恵 光	講師（教養科）に昇任	助教（教養科）
	高 矢 昌 紀	講師（電気電子工学科）に昇任	助教（電気電子工学科）
	小 林 隆 志	教務主事を併任（新規）	教授（機械工学科）
	芳 野 恭 士	学生主事を併任（新規）	教授（物質工学科）

平成28年度 校務分掌

平成28年4月1日 現在

校 長	
藤 本 晶	
副校長(教務主事)	
教 授 小 林 隆 志	
校長補佐(学生主事)	
教 授 芳 野 恭 士	
校長補佐(寮務主事)	
教 授 小 林 美 学	
校長補佐(専攻科長)	
教 授 高 野 明 夫	
専攻科 環境エネルギー工学コース長	
准教授 大庭勝久	
専攻科 新機能材料工学コース長	
准教授 小村元憲	
専攻科 医療福祉機器開発工学コース長	
講 師 横 山 直 幸	
機械工学科長	
教 授 村 松 久 巳	
電気電子工学科長	
教 授 野 毛 悟	
電子制御工学科長	
教 授 遠 山 和 之	
制御情報工学科長	
教 授 藤 尾 三 紀 夫	
物質工学科長	
教 授 後 藤 孝 信	
教 養 科 長	
教 授 佐 藤 誠	
図 書 館 長	
教 授 大 久 保 清 美	
総合情報センター長	
教 授 宮 下 真 信	
(副) 准教授 鈴木康人	
地域共同テクノセンター長	
教 授 稲 津 晃 司	
(副) 准教授 永禮哲生	
(副) 助教 大林千尋	
総合情報センター部門長	
情報システム管理部門	
技術専門員 青 田 広 史	
情報教育部門	
准教授 鈴木康人	
情報化推進部門	
教 授 宮 下 真 信	
地域共同テクノセンター部門長	
地域連携部門	
准教授 永禮哲生	
研究支援部門	
助 教 大 林 千 尋	
知的財産部門	
教 授 稲 津 晃 司	

教育研究支援センター長	
教 授 佐 藤 憲 史 仁 幸	
(副) 准教授 横 山 直 幸	
(副) 講 師 山 直 幸	
学習サポートセンター長	
教 授 勝 山 智 男 寛	
(副) 准教授 松 澤	
技 術 室 長	
教 授 佐 藤 憲 史 猛	
技術長 鈴木	
学生生活支援室長	
教 授 鈴 木 久 博 彦	
(副) 准教授 眞 鍋 保	
キャリア支援室長	
教 授 長 縄 一 智	
国際交流室長	
教 授 鄭 萬 溶	
特別課程運営室長	
教 授 川 上 誠 人	
(副) 准教授 鈴木尚	

教 務 主 事	
教 授 小 林 隆 志	
教 務 副 主 事	
教 授 高 野 明 夫	
教 務 主 事 補	
准教授 嶋 直 樹 久 也 之	
准教授 大庭勝進	
教 授 竹 口 昌 之	

学 生 主 事	
教 授 芳 野 恭 士	
学 生 副 主 事	
-	
学 生 主 事 補	
教 授 鄭 萬 溶 史 保 子 巧	
准教授 小 柳 敦 志 智	
准教授 佐 藤 成 田 大 沼	
准教授 大 沼 沼	

寮 務 主 事	
教 授 小 林 美 学	
寮 務 副 主 事	
-	
寮 務 主 事 補	
准教授 佐 藤 崇 德 也 進 子	
准教授 松 田 谷 伸 進 子	
准教授 小 松 本 祐 子	
准教授 松 本 祐 子	

企画運営委員会			
校 長	藤 本 晶	隆 志 士	学 夫 美 誠 治 人
教 授	小 林 野 林	隆 恭 美 明 清	夫 美 誠 治 人
教 授	小 芳 野 林	隆 恭 美 明 清	夫 美 誠 治 人
教 授	小 高 野 野	隆 恭 美 明 清	夫 美 誠 治 人
教 授	大 久 保 大	隆 恭 美 明 清	夫 美 誠 治 人
教 授	川 上 賢 正	隆 恭 美 明 清	夫 美 誠 治 人
教 授	長 谷 山	隆 恭 美 明 清	夫 美 誠 治 人
事務部長	大 山	隆 恭 美 明 清	夫 美 誠 治 人

教 科 主 任	
国 語	小 村 宏 史
社 会	佐 藤 崇 德
数 学	遠 藤 良 樹
物 理	住 吉 光 介
化 学	小 林 美 学
体 育	渡 邊 志 保 美
英 語	村 上 真 理
ドイツ語	大 久 保 清 美

寮 監 及 び 寮 監 代 行	
寮 監	笹 原 正 和
寮 監 代 行	小 林 美 学 德 也 進 子
	佐 藤 崇 德 也 進 子
	小 松 谷 本 祐 子

事 務 部 長	
大 山 正 人	
総 務 課 長	
露 木 弘 充 由 広	
課 長 補 佐 神 田 貴 由	
課 長 補 佐 大 河 由	
学 生 課 長	
宇 野 裕 之 二	
課 長 補 佐 室 伏 啓	

学 級 担 任							
学年	クラス	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	学年代表
1		澤 井 洋	黒 澤 恵 光	松 澤 寛	小 村 宏 史	渡 邊 志 保 美	鈴 木 久 博
学年	学科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	
2		鈴 木 正 樹	平 田 陽 一 郎	村 松 直 子	藤 井 数 馬	住 吉 光 介	住 吉 光 介
副		永 禮 哲 生	西 村 賢 治	鈴 木 静 男	山 崎 悟 史	大 川 政 志	
3		鈴 木 尚 人	高 矢 昌 紀	青 木 悠 祐	長 縄 一 智	山 根 説 子	長 縄 一 智
4		新 富 雅 仁	大 澤 友 克	牛 丸 真 司	芹 澤 弘 秀	藁 科 知 之	芹 澤 弘 秀 治
5		西 田 友 久	大 津 孝 佳	長 澤 正 氏	長 谷 賢 治	青 山 陽 子	長 谷 賢 治

平成28年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)				
陸上競技部	☆松本祐子	渡邊志保美	鈴木静男		
ソフトテニス部	☆佐藤崇徳	平田陽一郎	村上真理		
バレーボール部	☆大庭勝久	鄭 萬 溶	成田智子		
バスケットボール部	☆遠山和之	青山陽子	鈴木久博		
野球部	☆小村宏史	横山直幸	前田篤志	大島一真	大久保清美
卓球部	☆松田伸也	稲津晃司	高野明夫	黒澤恵光	
柔道部	☆松澤寛	西垣誠一			
剣道部	☆澤井洋	遠藤良樹	小村元憲		
サッカー部	☆望月孔二	長縄一智	駒佳明	山崎悟史	新井貴司
	高田陽一				
ラグビー部	☆井上聡				
体操部	☆佐藤誠	大久保進也			
水泳部	☆新富雅仁	大澤友克	小谷進		
合気道部	☆長谷賢治	宮下真信			
テニス部	☆竹口昌之	後藤孝信	西田友久	川上誠	黒田一寿
スキー部	☆嶋直樹	鈴木正樹			
ハンドボール部	☆野毛悟	小柳敦史	高矢昌紀	村松直子	
弓道部	☆佐藤憲史	芳賀多美子			
空手道部	☆芹澤弘秀	眞鍋保彦			
バドミントン部	☆牛丸真司	藤尾三紀夫	大沼巧	古川一実	
トライアスロン部	☆三谷祐一朗	鈴木尚人			
吹奏楽部	☆藁科知之	永禮哲生	山根説子	松澤寛	
囲碁将棋部	☆勝山智男				
ロボコン部	☆青木悠祐	山中仁	大林千尋		
天文部	☆大川政志	住吉光介			
同好会(理工系)	☆村松久巳(機)	☆鈴木康人(プ)	☆鈴木正樹(数)	☆大津孝佳(知)	
同好会(芸術系)	☆長澤正氏(合)	☆吉野龍太郎(軽)	☆西村賢治(大)	☆佐藤志保(茶)	☆藤井数馬(E)
	☆大沼巧(ア)				

同好会(理工系) 機械工学・プロコン・数理・知財

同好会(芸術系) 合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS・アカペラ

着任挨拶



高専の違いを学ぶために

物質工学科
高田 陽一

山口県の宇部高専から参りました高田陽一と申します。このたび、人事交流制度で沼津高専に来る機会をいただき、4月より1年間、沼津高専の教育・研究に携わらせていただくこととなりました。限られた時間ではありませんが、よろしくお願いたします。

宇部高専の教員として5年半を過ごしてきましたので、高専という環境での経験はあります。しかし、高専という枠組みは同じであっても、各校の雰囲気や取組みの特徴は大きく異なると聞いています。1年次の混合学級や学科の枠を超えた共通基礎科目の工学基礎、2年次のミニ研究、高学年での学際科目、専攻科の融合複合コースなど、宇部高専にはない制度は大変興味深く、勉強になります。沼津高専や学生の雰囲気はこれから感じ取っていくこととなりますが、どこに違いがあるのか知ること

を楽しみにしています。また、受け取るばかりでなく、宇部高専での経験を活かして、沼津高専の発展に少しでも寄与できるよう努力して参ります。

専門は「界面化学」、「コロイド化学」です。あまり聞きなれない分野かもしれませんが、とても身近な学問で、たとえば洗剤（界面活性剤）は主な研究対象の1つです。応用範囲も広く、化粧品や食品、医薬品、撥水、環境問題などで、界面化学やコロイド化学の知識・技術が利用されています。私は界面化学やコロイド化学の現象を、外から力を加えることによって自由に制御できるようにデザインすることを目的として、研究を行っています。

私は、九州大学理学部化学科で学位取得後、東京理科大学薬学部で助教を経験し、宇部高専物質工学科に着任致しました。幼い頃から、父の仕事の都合で、様々な土地で生活してきましたが、静岡、そして沼津の地にはこれまで縁がありませんでした。新たな場所での生活はこれまでとは違った経験ができるという点で新鮮で、多くの刺激を受けます。折角いただいた機会ですので、沼津高専内外で様々な経験をさせていただき、実り多き1年にしたいと考えています。



高専教育で目指すこと

物質工学科
新井 貴司

本年度より物質工学科に助教として着任いたしました。よろしくお願いたします。

私は伊豆で高校生まで育ち、静岡大学（物質工学科）に進学しました。以来静岡大学で勉強・研究を続け、昨年度博士課程を修了しました。すなわち、静岡県内ですべての教育を受けていることとなります。そのため沼津高専について耳にする機会も多く、非常に評判が良いことを存じております。そのような高専で、かつ出身地域で高等教育に携われることを嬉しく思っています。

さて、沼津高専の教育理念は「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」だそうです。沼津高専着任にあたり、私は学生がこの理念にあるような人物になれるよう、支えていきたいと思っております。既に何人もの沼津高専生を見ておりますが、「人柄のよい」学生ばかりであると感じております。これは寮生活の賜物でしょうか。一方で、「優秀な技術者となり世の期待にこたえる」ためにはどのような力が必要となるのでしょうか。

私は、「気づき、考え、実行」できる力だと思っています。あることに気づいて疑問に思い、その原因・解決策を考え、それを実行することができれば、どのような場面においても技術者として世の期待にこたえられると思います。このような能力を学生が在学中に涵養できるよう助力いたします。そして、このような力の基礎となるのは幅広い知識です。知識がなくては疑問に思うことも、考えることも実行することもできません。専門教育を若いうちから受ける学生は大変かもしれませんが、この高専という素晴らしい環境を十分に生かしてほしいと思っております。

私は大学で、無機材料を小型化した際に起こる性能低下を緩和させる方法について研究しておりました。その経験を生かして沼津高専では無機化学や無機材料の授業を担当します。学生が化学を専門にするための基礎を固められるよう、理解しやすい授業になるよう努めていきます。一方で、学生の中には化学とは離れた分野で就職する人もいるでしょう。そのような学生にも、どこかで化学の内容に出会ったとき、「そういえば、そんなことを高専で教わったな」と思い出してもらえ、頭の片隅にでも残る授業を目指します。

まだ経験は浅いのですが、日々成長できるよう職務に取り組みますので、よろしくお願いたします。



夢

教養科

芳賀多美子

沼津に育った私にとって、「沼津高専」は純粋に憧れの存在でした。沼津という土地において絶対的な信頼を得て、独特の雰囲気と孤高の存在感を示しているように感じていました。そして、今この場所で未来を夢見る若者たちの教育に携われることを、誇らしく光栄に思っています。

学ぶことの基本は、すべて「温故知新」(過去の事実を研究し、そこから新しい知識や見解をひらくこと、先人の知恵に学ぶこと)です。過去の「常識」は、現代の「非常識」であることもありますが、過去の「非常識」を現代の「常識」に変えてこそ、科学技術の進歩はあります。もっと言えば、現代の「非常識」を未来の「常識」に変える可能性を学生は持っているはずで、だから、全ての学生に「夢」を持ってほしいと考えています。

「If you can dream it, you can do it. (夢見ることができれば、それは実現できる)」「The special secret of making dreams come true can be summarized in four C's. They are

Curiosity, Confidence, Courage, and Constancy. (夢をかかなえる秘訣は、4つの「C」に集約される。それは、「好奇心」「自信」「勇気」そして「継続」である)」とは、誰もが知っている Walt Disney の言葉です。

私自身、「夢は叶う」と信じています。「夢」はその人の生き方です。もし、夢がまだ叶わないとしたら、それは夢の途中だからかもしれません。そして、学生はもちろん、夢の途中にいます。夢を求めて彷徨っている「旅人」のような存在かもしれません。

そんな人生に失敗と挫折はつきものです。時には、「努力は報われない」とか「夢は叶わない」と投げ出したくなることもあるでしょう。それでも、前に進むために必要なのは、今を「乗り越える」ことです。

10,000回ダメでも、10,001回目には何かが変わるかもしれません。だからこそ、学生には10,000回の失敗に耐える「忍耐力」と10,001回目に挑戦する不屈の「精神力」を身につけてほしいと思います。そして、10,001回目の成功を手に入れるための「発想力(物事を違う角度から見ると柔軟な思考)」を養ってほしいと考えています。

沼津高専の教員として、そんな三つの力を育てる「国語」の授業ができれば…という野望があります。加えて、学生の夢を全力で応援する教員でありたいという大きな「夢」を抱いて、日々精進していきます。



誰もが誰かのメンター

教養科

黒田一寿

高専間教員交流制度により東京高専から派遣されました黒田一寿と申します。保健体育を担当します。私は遡ること16年前、大学院在学中に東京高専の公募へ応じ、幸運にも採用されました。当時行き詰りを感じていた私は、「捨てる神あれば拾う神あり」とばかりに大学院を中退して高専に飛び込みました。以来、授業やクラス担任、学生相談やクラブ活動などを通じてたくさんの学生さんと出会うことができました。

こうした学生さんと共有した時間は宝です。同窓会や結婚式に呼ばれることも増えてきました。良い思い出も苦い思い出も様々ありますが、こんな私を「先生」にしてくれたのは、紛れもなくこれまで出会ってきた学生さんたちです。師と仰られるような中身など持ち合わせていない私ですが、5年間という時間を共にすることで、ふしぎと慕ってくれる若人も出てきます。そんな出会いが私に肯定感をくれました。高校ではこうは行かなかったかもしれません。一方で、ちっとも言葉を交わしてくれない学生さんもいます。そんなときは自分の小ささを

見透かされているようで、教壇に立つのが不安でした。でも今度はそれが、教師として学び続けるべき事がたくさんあることを教えてくれました。

この10年間は学生相談や障害学生支援に携わっています。志あって始めたわけではありませんでしたが、いつのまにか私をそこへ導いたのは大学院時代の恩師だと思っています。ときどき「メシ食いに行こう」とお昼に誘われることがありました。ところが先生は、研究室から大学の門を出るまでの数百メートルの間、すれ違う学生すれ違う学生に声をかけ、「どう？元気してる？」と話し込んでしまいます。そのせいで、いつも門を出るまでに30分以上かかってしまい、お寿司をご馳走してもらうはずが「何でもいいから掻き込み！」となってしまうのでした。「せんせ〜、またこのパターンですね」と笑って小走りに研究室に戻った日々がなつかしいです。大学の学生相談室長を長く務められた方でした。ふりかえると、自分のなかの「教師像」が先生の影響をとて強く受けていることに気がつきます。

学生がいて、先生がいる。先輩がいて、後輩がいる。そこでは誰もがまなびとであり、誰もが誰かのメンターである。知識や経験、伝統を伝え、受け継ぐ関係性がお互いを成長させる。そんな場が学校であるように思います。そして伝統ある沼津高専のキャンパスや寮は、とても豊かな関係性に満ちているように感じています。

こちらでも支援室の担当となりました。相談室で待機

している日もあるのですが、今のところ閑古鳥が鳴いています（それはそうですよね）。この着任挨拶を読んでく

れた誰かが訪ねてくれると嬉しいです。

新入生から（入学にあたり）

創造と責任

1年1組（機械工学科）吉川詩音

高専の校風は自由です。学校だから、結構厳しいのではないかという考えを持つ方が多いようですが、実際、高専では登校時私服OKとか、寮の規律などが結構自由になっています。私は、この環境下で学ぶことで色々な能力を伸ばせるのではないかと考えています。

伸ばせる能力の一つとして、創造性が挙げられます。創造性とは、新しいことを産み出す事です。創造性を育むために、様々なことに挑戦し、自分のできることを増やしていくことが必要です。また、自分の考えだけでなく、他者の考えも聞き、見聞を広めることも大切です。自由な環境下において、自分の世界を広げ、広い視野を持ちたいと思います。

他に、自律的行動が挙げられます。これは、先輩方を見ていてとても実感しました。寮の多くの行事を通して、自分の考え・行動が求められることがあります。それによって、自律的行動が育まれますが、単にそれだけではないと感じています。つまり、行動力・実行力・判断力・決断力があってこそ、自律的行動ができます。それらは、自分の考えを持ち、自ら決めたことを徹底することで、得られる力だと思います。普段から、これを意識したいと思います。

高専生活で努めること

1年2組（制御情報工学科）寺田蒼

私が高専生活を送るうえで頑張りたいことは、三つあります。

一つ目は勉強です。高専での勉強は、他の高校と比べ難しくスピードも速いです。中学生のころ、私は主にテスト前に勉強していました。これからは毎日予習または復習をする勉強スタイルに変え、高専で学ぶ知識を自分のものとして身につけるようにします。

二つ目は寮生活です。私は寮で生活をしているので、同級生や上級生と一緒に暮らしています。集団生活だということを意識することで、他人のことを考えることができ、協調性のある人になれると思います。そのためには積極的にトイレトペーパーや洗剤の補充をし、ペッ

これらを伸ばすことによって、昨日までなかったものを造っていく、そんな技術者を目指します。

一方で、自由な環境下において、何でも自分の思うとおりにやっていいわけではありません。社会には法律があり、また、技術者にはコンプライアンスがあります。社会的ルールを守らないと、自らの信用を失うだけでなく、人様にご迷惑をかけてしまいます。一度失った信用を取り戻すのは容易ではなく、また、社会に役立つべき技術者のやるようなことではありません。これを認識し、責任の伴った行動をしたいと思います。

上記を踏まえ、規律を守ることを重視し、今後とも精進していきたいと思います。



新入生宿泊研修 オリエンテーション

トボトルや牛乳パックなどのゴミ捨てを上級生に言われる前にしようと思います。

三つ目はクラブ活動です。私は勉強が苦手ですので、勉強をする機会を作るために、「ESS同好会」と「数理同好会」に入りました。私は中学生のころから、英語が苦手です。ESS同好会では積極的に英語を話し、たくさん英語に触れることで、まずは英語を好きになろうと思います。また、高専の数学と理科は、好きというだけでは通用しないと思います。中学までの数学と理科の問題は感覚で解くことができ、公式を暗記する必要がありませんでした。しかし高専の問題は、公式を暗記しなければ解くことができません。公式を暗記するためには、問題を多く解き、公式そのものにたくさん触れることが大切だと思います。同好会の活動に一生懸命取り組み、学力を身につけたいと思います。

寮での生活、勉強、クラブ活動を両立させることは大変だと思います。たとえば、寮での生活に気を取られず

ぎてしまい、勉強をする時間を確保できなかつたりすることもあると思います。逆に、勉強ばかりに意識が行ってしまい、寮での集団生活ということ意識できなくなり、周りの人に迷惑をかけてしまうこともあるかもしれ

ません。しかし、三つのことを両立することができれば、将来私が社会に出た時に必ず役に立つと思います。私はこれからの高専生活で、これら三つを目標として頑張ります。

今、思うこと

1年5組(物質工学科) 久我五葉

中学1年生の時から憧れていた沼津高専に入学することができて、本当に嬉しかったです。高専に入学することを目標に毎日勉強をし合格したときには、頑張ってきた本当に良かったと思いました。これからも、日々の勉強を怠らないようにしていきたいです。

入学式が終わり、初めて親と離れての寮生活が始まりました。入学する前は、寮での生活がとても楽しみでした。しかし、いざ始まってみると、毎日ミーティングがあり、叱られたりルールのことなどで注意されたりと嫌なことの方が多いように感じました。それでも、これか

らは注意されたことは直し、寮の生活に慣れて楽しい生活を送れるように努力していきたいと思います。また、寮にはたくさんの行事があるので一つ一つの楽しみながら生活していきたいと思います。

宿泊研修の2日目に学科長の話聞いて、高専では毎日、自分で勉強することが大切だとわかりました。また、わからないことは、先生や先輩などに聞いて、わかるまで努力し続けることが大切だと感じました。私は中学生だった頃、塾に通っていたため、自分から進んで勉強をする習慣があまり身につけていないと思います。だから、これから先は自分で考えて勉強することを習慣にしていきたいと思います。そして、将来は技術者として社会に出て活躍できるように、この5年間でしっかりと勉強して実力をつけていきたいと思っています。



新入生宿泊研修 オリエンテーリング作戦会議



入学式 宣誓



新入生宿泊研修 学科別研修



新入生宿泊研修 教務主事講話

卒業生から

在校生の皆様へ向けて私の所感

電子制御工学科21期
専攻科制御・情報システム工学専攻修了
金子裕哉

私は沼津高専の電子制御工学科と専攻科を修了したあと、奈良先端科学技術大学院大学の博士前期課程も修了して、今は博士後期課程に在籍しています。つまり、周りの同級生や後輩までもが就職して働いて結婚して子供も持ったりしているなか学生を続けています。そうすると、昔は「勉強なさい！」と言っていた周囲も、いつの間にか「いつまで勉強しているんださっさと働け！」と言うのが普通です。幸い私は周囲の理解に支えられています。勉強だけしていても褒められる時間は本当に貴重だったんだと今更気づきました。

さて、私はまだ働いていないので高専で勉強したことが社会でどうこう、といったことはわからないので、研究を進めるうえで感じたことを書きます。研究では、理論解析で式を導出、シミュレーションのためにプログラミング、実験のために回路作成に測定器操作、結果を論文にまとめて学会発表、といった色々なことをしますが、どれもいつかの講義でやったことの延長線上にあるように思います。自分の研究を論文にまとめられるレベルに

するには研究テーマのことだけでなく色々な知識や技術が必要になります。高専は大きな大学に比べるとカリキュラムの自由度は低いですが、逆に自分の興味があること以外も学びます。これは意外なときに役に立ちます。私はロボットの研究はしていませんが、高専で勉強したことだけでガンダム GLOBAL CHALLENGEという2019年に実物大ガンダムを動かすというプロジェクトにアイデアを応募して受賞に至りましたから（これ、できれば検索してみてください！）。

また、講義や教科書で学ぶことはスポーツで言えば準備体操・基礎練習・ルール確認のレベルだからつまらなく感じてしまうことがあるだけで、それができて試合で得点できるようになれば面白くなってきます。プログラミングなんかは教科書で勉強したことだけでも色々なことができますから、積極的に使って何かの役に立ててみて、小さな成功体験を積み重ねていくとやる気が継続できると思います。

最後に月並みですが、仲のいい友達をたくさん作ることをオススメします。普通の高校生は友達とは大学で離れ、大学の友達は地元では会えない、となりますが、高専生は部活などに打ち込める年齢から車の運転やお酒を飲める年齢まで一緒に過ごしたうえに、地元で集まりやすいですから、歳をとってもたまに会って近況報告したり遊べる友達がいるのは楽しいですよ。以上です。

「これがしたい！」を見つける

制御情報工学科14期 藤原好美

私は制御情報工学科を卒業後、カーエレクトロニクス機器の設計・開発を行っている会社で4年間ソフトウェア開発に携わらせていただきました。現在は転職し、スイッチ製品の製造・販売を行っている会社で製品設計・開発の仕事をしています。

私が転職から学んだことを皆さんにお伝えしたいと思います。

皆さんは通過点をゴールと間違えて設定してしまったことはありませんか。

恥ずかしながら、私は「就職する」ことがゴールとなっていており、1社目に入社後、自分が何をしたいのかわからなくなってしまい、とても苦労しました。悩んだ末、ソフトウェアではなくハードウェアの仕事をしたいという思いから、現在の会社に転職しました。しかし、2社目の会社で私がやりたいと感じたことは、意外にも

ソフトを書くことでした。作業の効率化のために単純作業は自動化したいと思い、プログラムを書きました。そのときに初めて、「モノづくりがしたい」や「こんな技術が学びたい」ではなく、モノづくりを通して「何をしたいのか」が大切ということに気づかされました。技術は手段でしかなく、技術を高めても、それを使って誰かが困っていることを解決できないのであれば、自己満足となってしまいます。

では、自分は一体何をしたいのか…それを探すヒントとなるのは自分自身をよく知ることだと思います。やりたいことは自分にしかわからないからです。

学生時代にぜひ、広く学び、たくさんの経験をしてください。専門的な知識だけでなく、人と出会い、表現力・気づき力といったものも大切です。いろいろな人と関わり、自分がどんな時にうれしいと思うのか、どんな世界だったら楽しいのか、誰とどのようにすればそれを実現することが可能なのか…沼津高専には、寮生会や学園祭のスタッフなど学生主体の活動が多く、いろんなチャンスが用意されていると思います。ぜひ積極的に挑戦して自身を知り、自分がわくわくする「これがしたい！」を見つけてください。遠回りに見える道でも、どんな経験

も決して無駄にはならないと思います。いつか高専の時にあんなこと学んだなあと思える日が来るはずですよ。

という時間をいっぱい楽しんで充実した学生生活を過ごしてください。

留学生から



初めまして

物質工学科3年
バトバヤル ウラン ウルジ

皆さん、初めまして。私はモンゴルから参りましたバトバヤル ウラン ウルジです。この名前を呼ぶのは難しいので、ニックネームをウルナーにしました。だから、皆さんもウルナーと呼んで声をかけてくれたら嬉しいです。

最初にモンゴルについて少し知ってもらいたいと思います。モンゴルは日本と同じ四季のある国ですが、私は冬に-30℃になる、世界で一番寒い首都だと言われているウラーンバートルの出身です。だから、寒いのが得意で、日本の夏の暑さは苦手です。日本人たちにモンゴルについて聞いてみたら面白いことに、モンゴルには高いビル等が全然なく草原がいっぱいあって、モンゴル人は車ではなくて馬に乗って生活している所だろうと答えていました。実はモンゴルの首都のウラーンバートルには高いビルも車も沢山あります。モンゴルは人口が300万人しかなく、発展途上国なので、国民全員で自国モンゴルの発展のために責任を果たすことが重要だと思います。今のモンゴルで何より必要なのは技術者です。なぜなら、モンゴルは世界で天然資源保有国としてはトップクラスにはいますが、それを使える技術者がほとんどいないから

です。私はモンゴル国民としての責任を果たすため、自国の発展のために技術が優れている日本で勉強することに決めました。

私は技術者になるために親や友達たちから離れて、日本に平成27年、つまり去年の4月に来日し、1年間かけて東京日本語教育センターで高専に入るために色々な国の留学生たちと日本語の勉強をしました。そして、今年の4月から沼津高専の物質工学科のC3クラスに入りました。しかし、C3クラスはセンターのクラスと違って人数が多く、すべての学生が日本人です。センターではモンゴル人がいつも大勢いたのですが、高専ではモンゴル人は私一人だけになって、本当に新しい世界に入ったように感じました。

高専での生活は本当に楽しくて、面白いです。分からないことが多いですが私は新しいことに挑戦できて、いい経験になっています。それから授業で教わる日本語よりも、日本人学生が会話で使っている日本語のほうが分かりにくいのですが、私自身も‘やばい’という言葉もいつも使っていることに気づきました。このようなセンターでは習っていない分からない言葉も多く、方言も多いです。モンゴルには部活はありませんでしたが、高専に来て、自分で挑戦してみようと思いバドミントン部とアカペラ部に入りました。授業と部活で一日が早く終わってしまいます。

これから、3年間自分の目的を忘れないで、部活も頑張ってお友達をつくるようにがんばりたいです。皆さんよろしくお祈りします。

寮生会活動について

学生寮の紹介

電気電子工学科4年 寮長 武 縄 祐 樹

沼津高専の学生寮は自治寮です。学生寮では約560名の学生が生活していて、寮生のみで構成された寮生会が運営しています。この大規模な学生寮を寮生会が運営するというのは、他高専との大きな違いであり、私たちはこの学生寮で生活することを誇りに思っています。自治寮は全国高専の中でも珍しく、例年、他高専から本校の学生寮に研修生が訪れます。また、私たちも他高専を訪問し研修をさせていただいています。このようにお互いの

学生寮について情報を共有し、寮生活の改善点等を模索しています。特に今年度は生活をより良いものにしようとする動きが活発で、規則の改正を検討したり、新しいことに挑戦したりしています。

寮にはさまざまな催しがあります。寮祭、夏祭り、クリスマスパーティーが代表的な催しとなっています。これらの催しは先生の助けを受けながらも、そのほとんどを寮生の取り組みで行っています。寮生活の良いところは、このような催しを通してたくさんの人と交流できる点だと思います。

寮では、教育理念にもあるように「人柄」を重んじています。ここでいう「人柄」というのは、主に集団生活における、礼儀・マナーであり、これらについての指導

を頻繁に行っています。指導をする側の寮生は、「社会に通用する寮生の教育」を目標に日々の指導をしています。

ここで、厳しい話をさせていただきます。私は、このままでは我々が誇りに思っている自治寮は成り立たなくなってしまうと思います。寮生活で規則を破ると不祥事になりますが、この不祥事の件数が年々増え続ける傾向にあります。この原因としては指導が十分でないことほかに、個人が不祥事を軽視していることも考えられます。中には何度も不祥事を繰り返す寮生もいて、寮生会の手におえず、教員の力を借りる事もあります。これでは本当の自治寮とは呼べないのではないのでしょうか。私は、自治寮は継続していくべきだと思います。そのためには寮生自身が積極的に寮に貢献しようとする気持ちが必要だと思っています。また場合によっては厳しい指導も必要になってくると思います。

このように、寮生会は至らぬ点もありますが、寮の発展のために努力していきます。また保護者の方々の支援

がなければ、寮生活を送る事ができません。これからも温かい目で見守ってくださるようお願いいたします。



寮祭の様子

私の高専時代



高専生活で得たもの

機械工学科29期

大久保 進 也

桜が咲く季節になり初々しい高専新入生を見かけると、期待と不安を胸に抱いて本校へ入学した頃を思い出します。私が沼津高専へ入学したのは平成2年4月のことでした。初めて親元を離れ寮生活がスタートし、当時1年生は4人部屋（学習部屋と寝室の2部屋を4人でシェア）で、同室者達と初めて言葉を交わす時には大変緊張したことを覚えています。

高専へ入学を希望した理由としましては、幼い頃から工作や実験など、手を動かす作業が好きであったり、テレビアニメなどの影響でロボットのような機械仕掛けに興味があったということがあります。また、父親が中学生だった当時『全国に高専が創設される』という時代で、父にとっても憧れの学校だった、という話を何となく聞いていたこともあります。

しかし、いざ入学して授業を受けると、中学生時代には味わったことが無いくらい授業の進むスピードが速く、授業内容の難しさに戸惑いも感じました。と同時に、中学生までは学習に対して受身状態だったのが、高専の授業を通して、自発的に学習することの大切さを学ぶ非常に良い機会でもありました。また、高専は3年次に受験勉強をしなくてもよいという時間的な余裕から、クラブ活動や地域活動にも力を入れることができ、とてもよい

経験をすることができました。

私自身の転機は4年次でした。池上皓治先生の応用物理の授業の中で光学を扱っていましたが、我々の身近にあふれている「光」には様々な性質や現象があり、これを利用して色々なことに応用できる、という話を聞き、それまで全くといっていいほど興味を持っていなかった光の現象に興味を持ち始めました。この頃から光についてもっと追求したくなり、大学編入学を目指すとともに、5年次で池上先生の研究室でお世話になりました。研究テーマはホログラフィ（立体写真）で、その原理や光学的な理論を学んだあとに、実験データを取得、そのデータについて考察し、改善するために先人が追及した理論を学ぶ、の繰り返しでした。この一連の作業は非常に大変なものでしたが、その後の大学・大学院から現在に至り光に関連する研究に携わっており、高専時代に学んだことが大変活かされています。

卒業して20年以上が経ち、世の中の情勢が変わったことにより、高専卒業生に与えられる役割ももしかしたら変わってきているのかも知れませんが、高専生活で学んだことはこの先も様々な状況で活かされると思います。



教育後援会から

教育後援会の組織が新たに変わります

教育後援会会長 河合 隆 徳

先ずもって、4月よりこの沼津高専に新たにご息が進学された保護者並びに関係者の皆様、ご入学おめでとうございます。ただ当の新一年生は勿論、親御さんにとっても嬉しさ反面、そばに居なくなった寂しさも痛切に感じておられる毎日ではと推察致します。沼津高専には他の高等学校のようなPTAという組織はございません。それに代わるのがこの教育後援会という組織で、個人的な感想では高校のというより、大学のそれに近いと感じております。ただ教育後援会の名前の通り、学生の皆さんがより良い高専生活を送れるように、学校と協力して後方から彼ら彼女らを支えることには変わりはありません。今年度不束ながら会長を拝命しましたので、保護者の立場の代表として微力を尽くして取り組んで参ります故、ご協力の程よろしくお願い致します。

さて昨年度、沼津高専発足以来続いてきた組織の見直し(=支部制への移行)を学校側から打診されまして、鈴木邦裕前会長が中心となって組織改編の土台作りにご尽力いただきました。そのお陰で、理事会と総会での承

認をいただき、今年度より表題にあります通り、浜松・静岡・富士・沼津・三島の5支部制(県外出身の方もどこかに所属していただきます)をひかせていただき、過日お集まりいただきました総会は来年度からは開催されません。メリットと致しましては今までは基本的に年一回しか校長先生、教務主事、学生主事、寮務主事等の先生方からお話しを伺えなかったのが、支部制によりまして、年に複数回そのチャンスを設けていただければか、今までは500人以上が一堂に会していましたが、地元近くでもっとこぢんまり開催できることになりましたので、先生方とより親密な話し合いが可能となりました。合わせて教育部会、学生部会、寮務部会といった今までにない部会も立ち上がり、それぞれの部会で話し合われた事や、各支部会で出た案などを理事会で協議して決めるといったように、皆様の意見をより吸い上げやすくなるのではと期待しております。反面、先生方は今までの年一回から大幅に我々に対して時間を割いていただかなければならず、事務方の職員様共々、大変恐縮しております。ご息のこの沼津高専での学生生活がより充実して、初期の目的を達成してこの沼津高専を巣立っていただくことを願って、重ね重ね皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

入学に際して保護者から

沼津高専に入学して

新入生保護者(1年3組) 佐 塚 智佳子

入学式は肌寒い一日でしたが、この時期までがんばってくれた桜が新入生を祝福してくれました。この日、新入生の皆が希望を胸に沼津高専の門をくぐったことと思えます。

息子が沼津高専を目指したのは、中学一年生の夏にオープンキャンパスに参加したことがきっかけでした。幼い頃からロボットや機械が好きで、父親が自宅のパソコンをいじっていると隣でじっとみつめていたり、高専のロボコン大会が放映されるとテレビの前で正座して見たり、近くの科学館にもよく遊びにいったりしていたので興味があつたようです。中学一年生には難しい内容だったかもしれませんが、彼は目を輝かせて様々な実験や高専生の先輩たちのお話を聞いていました。それから毎年参加し、やはりこの学校に行きたいと強く希望し、夢叶って沼津高専へ入学することができました。

でも、夢へのスタートはここからです。技術者への道は決して甘くないはずで、失敗することもなかなか前に進まないこともあるでしょう。沼津高専で掲げる「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」の意味を考えてみました。勉強して努力をすれば技術者になることはできるでしょう。しかし、ただ技術があっても、企業で活躍するためには周囲とのコミュニケーションや交渉能力も必要はらずです。そのような人間性の育成のために寮生活があり、寮での規律を守ることが大切なのだと思いました。まさに「鉄は熱いうちに打て」です。

ところで「可愛い子には旅をさせよ」は、今私自身に言い聞かせている言葉です。三人兄弟の末っ子の息子を家から出すのは正直淋しいことでした。しかし帰省の際、こちらから聞かずとも高専生活の様子をたくさん話してくれ、学校にも馴染んでいるようで聞いて安堵しました。彼は彼で頑張っているのですね。沼津高専での学生生活を有意義に、何事に対しても謙虚にひたむきに進んで欲しいと願っております。

親も子も巣立ちの時です。入学式の帰り、散りゆく桜に見送られ感じた思いはきっと忘れることはないでしょう。

これから

新入生保護者（1年4組） 佐藤 かおり

「人柄のよい、優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ。」

オープンキャンパスに行った際知った沼津高専の教育理念、美しい景色を見たときと同じような、目の前がパッと明るくなる感動を覚えました。その日私の手帳には、この言葉が書き写され、後に何度となく思い返すことになりました。この学校で学ばせてあげたいと思い始めるきっかけとなった言葉です。

小学生の頃から物を作ったり、絵を描いたりすることが好きで、高専という兄妹とは違った進学先を考え始めた娘。

中学生になると部活に明け暮れ、日焼けをして真っ黒。陸上四種競技、全ての種目が終わり帰る頃には、フラフラしていたけれど、どこが良くてどこが悪かったか、これからどのようにトレーニングしていったらいいか、考えを巡らせていました。考えることが楽しかったのかもしれません。

沼津高専へ進学したいという気持ちは、学年が進むにつれ大きくなり、痛いほど感じられましたが、勉強は焦りと不安で空回り、それでも合格は難しくても挑戦することが大事と無理矢理、心に言い聞かせ臨んだ受験でした。合格がわかった時は、信じられない思いと安堵で涙

が溢れてきました。

念願の高専生となり、寮生活も始まりました。

人間は一生のうち少なくとも200人の人と関わりを持って生きていくと聞いたことがあります。先生、先輩、友達、親類、家族、その中で親として子供に伝えなければならないことがあると思っています。傷つくであろうことでも、子供の成長の助けになるように、親の成長の助けにもなるように、そして将来、知識や能力だけの人間にならないように。

人を動かすのは、心が先にあるからだと思います。人との繋がり、コミュニティを大切に、ここ沼津高専で、技術も能力も心も磨いて、苦しくて不安で、寂しくて、はずかしくて、でも嬉しくて、楽しくて、かけがえのない大切な時間を仲間と共に過ごしてもらいたいと思います。



メンタルヘルス講演会

事務部から

平成28年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、中学生その他の参加者に、沼津高専の興味のある学科や施設などを自分の目で自由に見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学の意味を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

本年度1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食事体験、学生会企画及びクラブ紹介、学内施設紹介などを予定しています。また、中学生及び保護者の方に好評を得ております進学説明会は、計5回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の中学生が本校を知り、

入学を志望、決意するものと思われま。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月29日(金)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。



1 日体験入学

1. 日 時 平成28年9月3日(土) 9:30~15:00
2. 場 所 沼津工業高等専門学校全域
3. 実施内容
 - (1) 進学説明会
 - (2) 各学科・専攻科紹介
 - (3) 学内施設紹介
 - (4) 学生会企画及びクラブ紹介
 - (5) 学生寮食事体験
 - (6) その他
4. 1日体験入学ホームページアドレス
http://www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial_enrollment

平成28年度(8月~3月)行事予定表

平成28年

- 8月**
- 1日(月) 夏季休業(7月22日から8月31日まで)
 - 17日(水) 全国高専体育大会(9月4日まで)
編入学試験
 - 21日(日) 寮生リーダー研修会(23日まで)
 - 29日(月) 編入学予定学生説明会

- 9月**
- 1日(水) 授業再開
 - 3日(土) 一日体験入学
 - 15日(水) 前期末試験(23日まで)
 - 26日(月) 専攻科後期授業開始
 - 28日(水) 2年生ミ二研究発表会

- 10月**
- 2日(日) 中学生のための体験授業
 - 3日(月) 後期開始
 - 5日(水) 4年工場見学(7日まで)
 - 7日(金) 2年特別研修
 - 9日(日) 東海北陸地区ロボコン大会
 - 26日(水) 文化講演会

- 11月**
- 1日(火) 体育祭・学生総会
 - 4日(金) 高専祭準備
 - 5日(土) 高専祭・体験授業(6日まで)
 - 7日(月) 高専祭片付け
 - 12日(土) 東海北陸地区英語スピーチコンテスト
 - 14日(月) 授業参観・学科説明会(18日まで)
 - 19日(土) 1・2年TOEIC Bridgeテスト
3・4年TOEIC IPテスト
 - 29日(火) 中間試験(12月5日まで)

- 12月**
- 5日(月) テクノフォーラム
 - 7日(水) 3年合宿研修説明会
 - 10日(土) 4年工学系数学統一試験
 - 14日(水) 専攻科入学説明会(予定)
 - 22日(水) 終業式・閉寮式
 - 26日(月) 冬季休業(1月5日まで)

平成29年

- 1月**
- 6日(金) 授業再開
 - 12日(水) 3年到達度試験(数学・物理)
 - 14日(土) 専攻科2年生研究発表会
 - 18日(水) 3年インターンシップ説明会
3年合宿研修説明会
 - 19日(水) 3年合宿研修(20日まで)
 - 22日(日) 推薦入試
 - 30日(月) 春季合宿説明会
- 2月**
- 6日(月) 専攻科後期試験(10日まで)
 - 9日(水) 学年末試験(15日まで)
 - 10日(金) 専攻科1年生長期インターンシップ報告会
 - 13日(月) 専攻科臨時休業(3月17日まで)
 - 19日(日) 学力入試
 - 27日(月) 終業式・閉寮式
 - 28日(火) 5年卒業研究発表(3月1日まで)
臨時休業(3月17日まで)

- 3月**
- 6日(月) 入学説明会(予定)
 - 7日(火) 就職祭(予定)
 - 10日(金) 5年卒業判定会議
 - 16日(水) 1~4年進級判定会議
 - 20日(月) 卒業式・修了式
 - 21日(火) 学年末休業(3月31日まで)

スポーツ大会の様子



ドッジボール



ソフトボール



ハンドボール



バスケットボール



バレーボール



フットサル

